

質問に対する回答について

工事名) 東北自動車道 白石中央スマートIC工事

質問事項と回答

番号	質問事項	回 答
1	設計関係図書 設計図 (Bランプ橋) 図面番号 43/53 B ランプ橋 A2 橋台山留計画図(3)につ きまして、数量表に記載の主部材、腹起 し (5 段目) は長さが 3.500m となっ ております。正しくは 13.500m ではない でしょうか。	主部材 腹起し (5 段目) の長さについて、 正しくは 13.500m となります。 交付図書に一部に誤りがありましたので 後日訂正いたします。
2	設計関係図書 設計図 (Dランプ橋) 図面番号 36/50 D ランプ橋 A1 橋台山留計画図(1)につ きまして、消耗部材の記載がございま せん。同図面の数量表により、鋼製山留 材重量の総合計は消耗部材を入れず 41,490kg でよろしいでしょうか。	鋼製山留材の消耗部材の質量の算出につ いて、土木設計数量算出要領を参照くだ さい。また、鋼矢板の質量は 37,740kg、 鋼製山留材の質量は 3,750kg となりま す。
3	設計関係図書 設計図 (Dランプ橋) 図面番号 43/50 D ランプ橋 A2 橋台山留計画図(3)につ きまして、消耗部材 996kg と記載され ております。正しくは主部材 21,070kg $\times 4\% = 842.8\text{kg}$ ではないでしょうか。	鋼製山留材におけるジョイントプレート の取扱いは、正しくは「副部材」となり ます。また、消耗部材の質量について、 正しくは主部材の合計 $21,070\text{kg} \times 4\% =$ 843kg となります。 交付図書に一部に誤りがありましたので 後日訂正いたします。
4	設計関係図書 設計図 (函渠工) 図面番号 101/134 国見 54 (STA. 96 + 56.340) P-Bx-4.50- 6.30-8.86 R65° 3' 山留工一般図(1) につきて、鋼矢板 SP-4 型には 1 箇所 継手ありと記載されております。鋼 矢板継手部材の詳細な仕様と質量をご 教示ください。	仕様と質量については、設計要領第二集 橋梁建設編、及び道路土工 仮設構造物工 指針を参照ください。

5	<p>設計関係図書 設計図（函渠工）図面番号 105/134 国見 54 (STA. 96 + 56.340) P-Bx-4.50-6.30-8.86 R65° 3′ 山留工一般図(5)B ランプ側（L 形擁壁）につきまして、構造物掘削特殊部Ⅰの鋼矢板切断・スクラップ（SP-3 型）の長さが 1.5mとあります。同図面内の（3-3）断面図を参照しますと 2000（撤去）とありますが、どちらが正でしょうか。ご教示ください。</p>	<p>設計図 函渠工（105/134）国見 54（STA. 96 + 56.340）P-Bx-4.50-6.30-8.86 R65° 3′ 山留工一般図(5)B ランプ側（L 形擁壁）の数量表のうち、鋼矢板切断・スクラップ（SP-3 型）について、正しくは以下のとおりとなります。</p> <table><tr><td>鋼矢板 SP-3 型（長さ 1.5m）</td><td></td></tr><tr><td>数量</td><td>40</td></tr><tr><td>単位質量（kg/m）</td><td>60.00</td></tr><tr><td>1 本当り質量（kg/本）</td><td>90.00</td></tr><tr><td>質量（kg）</td><td>3,600</td></tr></table> <table><tr><td>鋼矢板 SP-3 型（長さ 2.0m）</td><td></td></tr><tr><td>数量</td><td>20</td></tr><tr><td>単位質量（kg/m）</td><td>60.00</td></tr><tr><td>1 本当り質量（kg/本）</td><td>120.00</td></tr><tr><td>質量（kg）</td><td>2,400</td></tr></table> <p>交付図書の一部に誤りがありましたので後日訂正いたします。</p>	鋼矢板 SP-3 型（長さ 1.5m）		数量	40	単位質量（kg/m）	60.00	1 本当り質量（kg/本）	90.00	質量（kg）	3,600	鋼矢板 SP-3 型（長さ 2.0m）		数量	20	単位質量（kg/m）	60.00	1 本当り質量（kg/本）	120.00	質量（kg）	2,400
鋼矢板 SP-3 型（長さ 1.5m）																						
数量	40																					
単位質量（kg/m）	60.00																					
1 本当り質量（kg/本）	90.00																					
質量（kg）	3,600																					
鋼矢板 SP-3 型（長さ 2.0m）																						
数量	20																					
単位質量（kg/m）	60.00																					
1 本当り質量（kg/本）	120.00																					
質量（kg）	2,400																					
6	<p>設計関係図書 設計図（函渠工）図面番号 105/134 国見 54 (STA. 96 + 56.340) P-Bx-4.50-6.30-8.86 R65° 3′ 山留工一般図(5)B ランプ側（L 形擁壁）につきまして、鋼矢板 SP-4 型および SP-3 型には 1 箇所継手ありと記載されております。鋼矢板継手部材の詳細な仕様と質量をご教示ください。</p>	<p>仕様と質量については、設計要領第二集 橋梁建設編、及び道路土工 仮設構造物工 指針を参照ください。</p>																				
7	<p>設計関係図書 設計図（函渠工）図面番号 100/134 地盤改良数量表のうち、水路 Box の改良長が 556.5m となっておりますが、正しくは 10.3m/本×53 本＝545.9m ではないでしょうか。</p>	<p>地盤改良工 機械混合 C 水路 Box の改良長計について、正しくは 545.9m となります。また、改良長計の合計は 1790.8m となります。</p> <p>交付図書の一部に誤りがありましたので後日訂正いたします。</p>																				

8	<p>設計関係図書 特記仕様書 P19</p> <p>18-1(1)にて、基礎材 B は再生クラッシャーランである旨のご呈示をいただきましたが、設計図（管渠工）によれば管渠の基礎材は「敷砂」の旨を読み取れます。管渠工の基礎材は再生クラッシャーランと砂のどちらをお見込みでしょうか。</p>	<p>特記仕様書 18-1 再生資材の使用（1）については、再生資材を使用する単価表の項目、再生資材の種類、数量等を示しております。</p> <p>また、管渠工の基礎材については、図面に記載のとおりとなります。</p> <p>なお、特記仕様書 18-1 再生資材の使用（1）に示す単価表の項目のうち、2-(8) 基礎材 B の数量について、正しくは約 100m³ となります。</p> <p>交付図書の一部に誤りがありましたので後日訂正いたします。</p>
9	<p>設計関係図書 設計図（雑工）図面番号 9/26</p> <p>立入防止柵撤去において支柱切断位置をお示しいただいておりますが、柵とコンクリート基礎の両方を特記仕様書 15-1 に記載の引渡場所にてお引き渡す想定でよろしいでしょうか。それとも、コンクリート基礎は廃材として処理する想定でしょうか。</p>	<p>特記仕様書に記載の引渡場所において、柵とコンクリート基礎の両方を引き渡すとお考えください。</p>
10	<p>設計関係図書 設計図（雑工）図面番号 23, 26/26</p> <p>用排水工 CF-A-0.35-0.35(F)、用排水工 CF-B-1.20-0.95(F) にパッキングの記載がございませんが、パッキングの使用は想定されていないでしょうか。</p>	<p>パッキングは使用し、その費用は単価項目に含まれているものとしてお考えください。</p>
11	<p>設計関係図書 設計図（雑工）図面番号 23, 26/26</p> <p>雑工—施工ヤードの仮設用排水構造物は、工事完了後も残置する想定でよろしいでしょうか。また、撤去を想定の場合、有価物として売却を想定されておりますでしょうか。</p>	<p>工事完了後も残置するものとしてお考えください。</p>

1 2	<p>その他 間接工事費の補正について</p> <p>本案件は、東日本大震災の被災三県を対象とした「復興係数」による間接工事費の補正を考慮しているかを教えてください。</p>	<p>本工事では復興係数は適用しません。</p>
1 3	<p>設計関係図書 特記仕様書 25 頁</p> <p>盛土工 B は「他事業の建設発生土を使用して路体の施工を行うもの」とありますが、他事業の建設発生土は土砂 A 相当と考えてよろしいでしょうか。</p>	<p>盛土工の B の土質区分は土砂 B となります。交付図書の一部に誤りがありましたので後日訂正いたします。</p>
1 4	<p>設計関係図書 金抜設計書</p> <p>盛土工 盛土工 B に「工事用機械分解組立費 A」が割掛けされていませんが、「工事用機械分解組立費 A」が必要なのではないでしょうか。</p>	<p>盛土工 盛土工 B に関する工事用機械分解組立費は、割掛項目 共通仮設費 工事用機械分解組立費 A で計上するとお考えください。</p>